

今月の主な内容

- 2面: 学祭飲酒 各大学で敬遠ムード
- 3面: 「IPS って?」学生の理解度は
- 4面: 【特集】学生団体を科学する
- 6面: 【野球】関西の5学生プロへ
- 7面: 【ラグビー】天理大 無傷で3連覇



携帯HP

神戸大学ニュースネット NEWS NET

©神戸大学ニュースネット委員会 <http://home.kobe-u.com/top/newsnet/>
 関西学生報道連盟共同編集室=〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-2-24ダイナビル4階
 電話06-6307-1315 FAX06-6829-6353 メール info@unn-news.com

スキー・スノーボードツアーはお任せ下さい。
Tours Japan
<http://www.tours-japan.co.jp/>
合宿・ゼミ旅行など皆様の全ての旅行を応援します。
 大阪市淀川区西中島 4丁目2番8号
 YS 新大阪ビル 7F(701-702号) **TEL:06-6101-0088**

11月号

110周年記念

振り返る大学の危機 69年大学紛争

今年度、晴れて110周年を迎えた神戸大。関連の記念イベントも多く開催されているが、110年の歴史の中には、その存続を脅かすような出来事もあった。



バリケードが撤去される六甲台正門 (1969・昭和44年8月8日『写真集』81頁)

神戸大の歴史の中で、卒業式や入学式が中止となった異例の年がある。それは1969年、学内で紛争が起きたことだった。

神戸大の大学紛争のきっかけは、大学側が、それまで国が負担していた住居費の寮費を学生負担しようとしたことによる。寮生の反発があった。突然の申し渡しの不満を持った寮生は、大学側に対する抵抗運動を開始。その後、各学部で不満が次々と爆発し、大学全体を巻き込んだ学生運動へと発展した。

学生らは、当時六甲台にあった神戸大本部を封鎖し、教養部(現在の国際文化学部)にバリケードを張り巡らせ、根城を築き上げた。

●その他にも...

- ・空襲被害 (1945年)
太平洋戦争による空襲で甚大な被害を受けた神戸大前身の数大学。現在の工学部、発達科学部の校舎は全焼してしまった。
- ・阪神・淡路大震災 (1995年)
学生、教職員を合わせ44人が死亡、負傷者は556人にのぼった。六甲台、鶴甲キャンパスは避難所として利用された。

学内外で事件相次ぐ

発達科学部教授 海上で遺体発見
 大学院人間発達環境学研究所の武井義明教授(運動生理学)が11月6日の午前1時30分ごろ、ポートアイランド(神戸市中央区)北西の沖合で、釣り中の男性会社員に発見され、その約1時間後に死亡した。
 広報課によれば、バス運転について学生に広報し、学生に意見を求める姿勢が生まれるようになったことは確かだ。「今考えてみれば、学生にとっても大学の在り方を考えるきっかけとなったのでは」と、卒業生は語った。

生協に侵入者 プロの犯行か
 11月7日朝、発達科学部と工学部の食堂、発達科学部の購買にそれぞれ何者かが侵入した。警察は、この事件の影響で購買は一時閉鎖し、両食堂は荒らされた。両食事は中止された。警察はこの事件の調査を進めている。

大学での新生活に! 就活にグ〜ンと有利!

朝日新聞

未来を創る大学生のあなたへ 大学生応援価格の登場です。

朝日新聞月々購読料 (通常価格)3,925円
 ↓
大学生応援価格 2,500円

*大学生応援価格2,500円は、1ヶ月の購読料(税込)です。ひとり暮らしの大学生限定です。1年以上のご購読契約で、口座振替または、クレジット払いが条件となります。

お問い合わせ・お申し込み
ASA 神戸なだ
 神戸市灘区土山町 1-13
 ☎ 078(851)5678
 ✉ info@asa-kobenada.com



2つの祭りの情報誌

毎年11月10日と11日にわたって開催された昼の第33回六甲祭、夜の第39回徹夜祭。ムードや高揚がらりと変わる2つの学祭だが、その理由には「実行委員の人数」が大きく関わっていた。

チーム戦の六甲祭

運営から見る2つの祭り

少数精鋭の徹夜祭

白を埋める修繕場もへり抜けたという。また、今年度は徹夜祭中に停電が発生。実行委員は、配電盤を1つずつ空けてブレーカーを確認する苦行を経験した。

だが、人数が少ないからこそその工夫もある。昨年から行っている、ゲーム「大乱闘スマッシュブラザーズ」によるトーナメント「暗黒闘技場」に使うゲーム機は、各実行委員が個人的に持つ人脈を活かして集めたもの。「全部の企画に関わるからこそ、思いつく企画や使える人脈もある」と、松浦さんは話した。

チームで戦った六甲祭。少ないながらも個々の努力が光った徹夜祭。今年もその努力の結果を、多くの来場者が楽しんだ。

決め手は自然な笑顔

女性ファッション誌「JJ」主催の「Miss JJ」は、参加大のミスコンで選出された各代表の中から「Miss JJ グランプリ」を1人決め、本物のJJモデルにしようという企画。今回のミスコンで神戸大代表となった山口さんは「まさか自分が選ばれるなんて」と、嬉しさと驚きが入り交じった表情を浮かべた。審査員のJJ編集長からは「会場に来た友達に向けた自然な表情がよかった」と絶賛を受けた。「本戦のことは考えていなかったけど、頑張りたい」と山口さんは意気込んだ。

~Miss JJ賞~ 山口萌さん(発達・2年)



スマイル vol.13
 Ms. Campus KOBE 2012
 in 六甲祭

杉山さんはアピールタイムに、6年間のブランクがあったピアノで、クラシック「愛の夢」を披露。「この日のためにずっと練習を重ねてきた」という話通り、ブランクを感じさせない滑らかな演奏で、会場からは「本当にピアノやめてたのかな、うまいよね」といった声が聞かれた。コンテスト後、杉山さんはステージ上のインタビューで「まずは練習を支えてくれた家族、そして友達にこのことを伝えたい」と、明るい口調で話した。

ブランク越えピアノで魅了

「英語を通して多様性を」
 学生団体「TEDee Kobe」のイベントが好評だ。本格的な英語ディスカッションが体験できる。イベントは主に5限に開催。参加者は留学生や社会人も、「TED」という英語プレゼン動画を見た後、ディスカッションを行い、まとめを発表する。動画をヒントに、考えを英語でぶつけ合う。一方的な主張でなく、意見を聴いた上で話を展開させる。英語力だけでなく、話を聞く力も養う「コミュニケーションの場」なのだ。

「伏流水」
 私は、8月22日から9月21日に船船実習に参加した。船船実習とは、免許の教習のようなものである。教習所で車に乗ると同じように、船上で実習を行う。船乗りの免許、海技士免許の教習である。ただ、スケールも期間も車とは比にならない。私が乗った練習船「大成丸」は航海訓練所が所有する、100メートル以上の蒸気タービン船だ。実際に海技士免許を取得するためには、更に11カ月の船舶実習が必要である。蒸気タービン船は、船の中心部である機関室が異常に暑い。ここで長袖と長ズボン、ヘルメット姿で、長時間作業を行うのは非常に辛かった。実習は大変である。その反面、座学では得られない実務能力を身につけることができるので、得られるものも大きい。私は自分の人間性の成長を身をもって実感した。そして、日本産業の基盤を支えるこの職業は、充実感を持ってできる職だと胸を張って言える。貿易大国、日本。私たちの知らない間にも、船乗りや、意外に知られていない職を持つ人々がその基盤を支えている。就職に悩んだら、この様な職について一考してほしいかだろうか。

【李憲】

【田中謙太郎】

【松永さとむ】

【田中郁哉】

【李憲】

連敗巻き返し 堂々の2位

近畿学生野球連盟一部秋季リーグ

最終戦の阪大戦の後、選手らはみなすっきりした顔で授賞式を迎えた。9月2日から10月12日まで行われた近畿学生野球連盟一部秋季リーグ。最悪な滑り出しだった神戸大が最終的に6勝6敗、勝ち点3で2位に輝いた。

神戸大は初戦の阪大戦を0-7で落とし、さらに第2戦、今春昇格したばかりの和歌山大にまさかの連敗を喫す。しかしそこから怒りの巻き返し。第5戦で奈産大に連敗したものの、残り全てで勝ち点をあげ、見事2位を勝ち取った。中村監督は「最初に苦戦こそしたが最後にはチームが一つになった。よく2位まで行けた」と選手らをたたえた。

このリーグ戦、何より大きかったのは瀬川(工・2年)の飛躍だ。今春はわずか1イニングの登板に終わったが、秋はフル稼働。7試合を投げ5勝の活躍。見事敢闘賞に輝いた。エース白木原(発達・4年)がそれぞれ打率0.474、0.400でチーム打率1.2位に。なかでも竹内はリーグ首位打者を獲得し、今春大会の打率0.154という成績を押しよこす活躍を見た。竹内は「春の大会以降責任感が付いた。レギュラーでやっている以上控えの選手よりも練習し、結果を残さなければ」と話した。

主将の唐沢(経営・4年)は「後輩らにはぜひ優勝してほしい」と果たせなかった目標を託した。優勝を目指す一方で危機感を持たねばならない。今春2位の大坂教育大が最下位に転落したように、近畿学生野球連盟は7季連続1

位の奈産大以外全チームが横一線。捕手の岡添(発達・3年)も「優勝して神宮はもちろんだがまずは最下位にならないように」と危機感を持っていった。来年度はレギュラー6人と瀬川が残る。「神宮への実力は十分」と唐沢は断言した。

「左投手No.1」に

「板東未弥」

「石橋雄大」

「残留近づく連勝アメフト第6節」

「残留近づく連勝アメフト第6節」



試合終了とともに崩れ落ちるAT平田(11月4日・鶴見緑地スタジアムで 撮影=小野学)

試合終了のホイッスルとともに選手らは膝から崩れ落ち、涙を流した。第23回関西学生ラクロスリーグファイナル3準決勝神戸大立命が11月4日、鶴見緑地スタジアムで行われ、神戸大は5-6で惜敗した。

予想外の敗北だった。昨年度ファイナル3決勝で京大に敗れた神戸大。「京大を倒し、全国へ」という目標を掲げ今年度厳しい練習を耐え抜いた。昨年度同様京大はリーグ戦を1位で通過。神戸大はリーグ戦で12-16と圧倒した立命を倒し、ファイナル3決勝でのリベンジを目指していた。しかし京大と当たることはな

かったと話した。第3Qに一度勝ち越されたも平田とMF西本(法・4年)のゴールで4-3で勝ち越し、第4Qへ。開始早々に同点にされ、立命に流れが傾きかけたが平田がこの日3点目となるゴールで勝ち越し。このまま逃げ切ったが、12分に同点にされ、さらにその1分後に勝ち越しを許してしまつた。その後神戸大は猛攻を見せるも美らなかつた。試合終了直後、選手らはショックのあまり整列に向かうことが出来ず、涙を流してしまつていった。エースのAT岩崎(経営・4年)は「また(敗れた)実感がわかない。明日から何をしようか」と苦笑しながら話した。この試合で4年生は引退し、次世代に引き継ぐ。平田は「悔しさが残る。後輩らにリベンジをしてほしい」と思いを託した。

関西学生女子タッチフットボール秋季リーグ最終戦、神戸大と武庫川女大が11月4日、神戸大海事科学部グラウンドで行われた。神戸大は第1Qで先制するも、武庫川女大の巧みな策略や華麗なフアンプレーに動揺することなく、リードを守りきり34-26で勝利し、春秋連覇を果たした。

今季負けなしの両チーム。リーグ最終戦、どちらが勝つてもおかしくない状況のなか、主導権を握ったのは神戸大だった。第2Q5分、QB山崎(発達・4年)からG谷本(経営・2年)のパスでTD成功。ついでトライで神戸大は、通常3ヤード前から攻撃開始

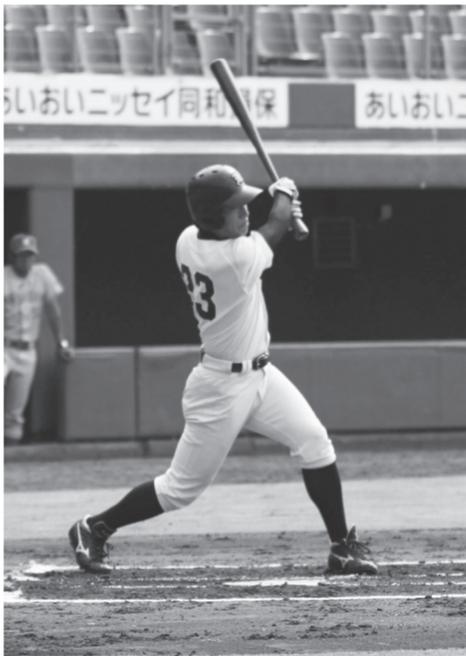
するところを6ヤード前から挑戦し2点獲得に成功する。この試合のために6ヤード地点からのトライを徹底して練習してきた。2点は、相手に迫られた時にアドバンテージとなる」と話した主将のC谷川(発達・3年)。

1点差に泣いた対武庫川女大戦から1年、チャンスをつかみ勝利に結び付けた。予想通り僅差の試合が繰り広げられた。ディフェンスでは要所をおさえ、オフフェンスではミスなして点を獲得することに集中した神戸大。絶対に勝つという全員が追い風となっていた。試合後、谷川は「正直嬉しいという気持ちしかない」と安堵の表情を浮かべた。

一方で久々にフル出場したWR山崎(発達・4年)は「チーム内の実力の偏りが解消されていない」と課題を口にしている。ポジション、個人間に生じる差をどれだけ縮められるか。神戸大は11月23日に王子スタジアムで行われる東西王座決定戦に向け調整する。

雨のなか行われた同志社戦。両チームがラン中心のプレーを展開したが、明暗が分かれた。神戸大はエースRB羽屋(発達・4年)が179ヤード、3TDを獲得する活躍。2本目のTDは相手のタックルをもとめせず中央を突破し、64ヤードを走りきった。「春から取り組んできたフィジカルアップの効果が出た」と手ごたえを感じていた羽屋。チームでのラン獲得ヤードも322ヤードとランオフフェンスが好調だった。一方のディフェンスでは、ライン戦で圧倒し、相手のラン獲得ヤードを54ヤードに抑え込んだ。

第6節を終え、神戸大は2勝4敗の5位。第7節の龍谷大戦に勝利すれば、一部残留が確定する。龍谷大戦に向け主将のDL白石(発達・4年)は「一勝つて下の代に引き継ぐ」と気を引き締めた。



首位打者に輝いた竹内(9月20日・ほっともっとフィールド神戸で 撮影=香月隆彰)

◎第23回関西学生ラクロスリーグ	
・リーグ戦	
vs 龍谷大	○13-5
vs 立命	○12-6
・ファイナル3準決勝	
vs 立命	●5-6
◎近畿学生野球連盟一部秋季リーグ	
vs 阪大	○3-2 ●0-2 ○5-0
◎秋季関西学生女子タッチフットボールリーグ	
7 第1Q	7
14 第2Q	7
0 第3Q	13
20 第4Q	13
神戸大 34	26 武庫川女大
◎関西学生アメフトリーグ	
vs 関学	●6-66
vs 立命	●7-56
vs 近大	○10-7
vs 同志社	○32-0
◎関西フットサルリーグ2012	
vs カンカンボーイズ・ASK	○4-1



「左投手No.1」に板東未弥

「残留近づく連勝アメフト第6節」

「残留近づく連勝アメフト第6節」

まさかの敗北で終幕

第23回関西学生ラクロスリーグファイナル3準決勝

予想外の敗北だった。昨年度ファイナル3決勝で京大に敗れた神戸大。「京大を倒し、全国へ」という目標を掲げ今年度厳しい練習を耐え抜いた。昨年度同様京大はリーグ戦を1位で通過。神戸大はリーグ戦で12-16と圧倒した立命を倒し、ファイナル3決勝でのリベンジを目指していた。しかし京大と当たることはな

かったと話した。第3Qに一度勝ち越されたも平田とMF西本(法・4年)のゴールで4-3で勝ち越し、第4Qへ。開始早々に同点にされ、立命に流れが傾きかけたが平田がこの日3点目となるゴールで勝ち越し。このまま逃げ切ったが、12分に同点にされ、さらにその1分後に勝ち越しを許してしまつた。その後神戸大は猛攻を見せるも美らなかつた。試合終了直後、選手らはショックのあまり整列に向かうことが出来ず、涙を流してしまつていった。エースのAT岩崎(経営・4年)は「また(敗れた)実感がわかない。明日から何をしようか」と苦笑しながら話した。この試合で4年生は引退し、次世代に引き継ぐ。平田は「悔しさが残る。後輩らにリベンジをしてほしい」と思いを託した。

関西学生女子タッチフットボール秋季リーグ最終戦、神戸大と武庫川女大が11月4日、神戸大海事科学部グラウンドで行われた。神戸大は第1Qで先制するも、武庫川女大の巧みな策略や華麗なフアンプレーに動揺することなく、リードを守りきり34-26で勝利し、春秋連覇を果たした。

今季負けなしの両チーム。リーグ最終戦、どちらが勝つてもおかしくない状況のなか、主導権を握ったのは神戸大だった。第2Q5分、QB山崎(発達・4年)からG谷本(経営・2年)のパスでTD成功。ついでトライで神戸大は、通常3ヤード前から攻撃開始

するところを6ヤード前から挑戦し2点獲得に成功する。この試合のために6ヤード地点からのトライを徹底して練習してきた。2点は、相手に迫られた時にアドバンテージとなる」と話した主将のC谷川(発達・3年)。

雨のなか行われた同志社戦。両チームがラン中心のプレーを展開したが、明暗が分かれた。神戸大はエースRB羽屋(発達・4年)が179ヤード、3TDを獲得する活躍。2本目のTDは相手のタックルをもとめせず中央を突破し、64ヤードを走りきった。「春から取り組んできたフィジカルアップの効果が出た」と手ごたえを感じていた羽屋。チームでのラン獲得ヤードも322ヤードとランオフフェンスが好調だった。一方のディフェンスでは、ライン戦で圧倒し、相手のラン獲得ヤードを54ヤードに抑え込んだ。

第6節を終え、神戸大は2勝4敗の5位。第7節の龍谷大戦に勝利すれば、一部残留が確定する。龍谷大戦に向け主将のDL白石(発達・4年)は「一勝つて下の代に引き継ぐ」と気を引き締めた。

雨のなか行われた同志社戦。両チームがラン中心のプレーを展開したが、明暗が分かれた。神戸大はエースRB羽屋(発達・4年)が179ヤード、3TDを獲得する活躍。2本目のTDは相手のタックルをもとめせず中央を突破し、64ヤードを走りきった。「春から取り組んできたフィジカルアップの効果が出た」と手ごたえを感じていた羽屋。チームでのラン獲得ヤードも322ヤードとランオフフェンスが好調だった。一方のディフェンスでは、ライン戦で圧倒し、相手のラン獲得ヤードを54ヤードに抑え込んだ。

第6節を終え、神戸大は2勝4敗の5位。第7節の龍谷大戦に勝利すれば、一部残留が確定する。龍谷大戦に向け主将のDL白石(発達・4年)は「一勝つて下の代に引き継ぐ」と気を引き締めた。

雪辱果たし春秋連覇

関西学生女子タッチフットボール秋季リーグ

今季負けなしの両チーム。リーグ最終戦、どちらが勝つてもおかしくない状況のなか、主導権を握ったのは神戸大だった。第2Q5分、QB山崎(発達・4年)からG谷本(経営・2年)のパスでTD成功。ついでトライで神戸大は、通常3ヤード前から攻撃開始



第2Qで6ヤード地点からのトライを決めたWR山崎(写真左)(11月4日・海事科学部グラウンドで 撮影=田中謙太郎)

雨のなか行われた同志社戦。両チームがラン中心のプレーを展開したが、明暗が分かれた。神戸大はエースRB羽屋(発達・4年)が179ヤード、3TDを獲得する活躍。2本目のTDは相手のタックルをもとめせず中央を突破し、64ヤードを走りきった。「春から取り組んできたフィジカルアップの効果が出た」と手ごたえを感じていた羽屋。チームでのラン獲得ヤードも322ヤードとランオフフェンスが好調だった。一方のディフェンスでは、ライン戦で圧倒し、相手のラン獲得ヤードを54ヤードに抑え込んだ。

第6節を終え、神戸大は2勝4敗の5位。第7節の龍谷大戦に勝利すれば、一部残留が確定する。龍谷大戦に向け主将のDL白石(発達・4年)は「一勝つて下の代に引き継ぐ」と気を引き締めた。